

9月9日は『救急の日』です。



～知っておこう、 子どもの救急対応～



小児科 後藤 篤



緊急性があるものの代表が窒息です。
窒息が疑われたらまず落ち着き、次のように対処しましょう。

1 すぐに大声で人を集めましょう。大至急で救急車を呼んでもらいましょう。

2 気道を確保し、子どもの息ができているかを確認しましょう。(口元に耳をつけ音があるか、空気の動きを感じるか、鏡を鼻につけたら曇るか、など)

3 息ができていなければ次に処置です。

乳児：左手で腹ばいの子どもを支え、右手の手のひらで背中を強くたたきます。5回繰り返し、子どもの頭を下げたまま、あおむけにして、胸の真ん中を指でしっかり胸がへこむくらい強く5回圧迫します。(図1)

2歳くらいから：体を前に抱えみぞうちの所を強く押してください。(図2)

動転して力がはまらない場合、年長では次のような方法もあります。(図3)

4 口の中にできた異物があればとってあげてください。口の中に異物がなければ、子どもの意識がある場合、この繰り返しをおこなってください。

5 ただし意識がなくなれば人工呼吸開始です。気道を確保し、人工呼吸を開始してください。脈がなければ心臓マッサージも同時に開始です。(図4、5)



図1



図2



図3

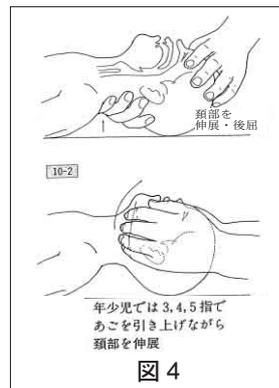


図4



図5



練習(シミュレーション)をしておきましょう。

何も無いときに練習(シミュレーション)しておく、いざ1兆分の一という事態がおこっても冷静に対応できるはずです。

鳥取県では、小児救急ハンドブックを作成しています。必要な方は岩美病院にお問い合わせください。

問い合わせ先 岩美病院 ☎73-1421